



滿洲地方に於ける

土木事業と都市計畫施設

〔四〕

三浦磐雄

關東州及鐵道附屬地内権要都市の

施設と其の附近情況

安東と諸施設

安東は滿鮮國境を流るゝ鴨綠江の右岸の國境都市にして朝鮮新義州府に對峙す。一葦の水を隔て、此處には鮮人の白衣に更ふるに、支那人の紺衣と極端なる變化を見る。然

れども朝鮮鐵道と南滿鐵道との接續は、陸路歐洲に通する滿洲の關門に位する故か、市勢概ね濶刺たるものあり。而して農產及林產に富む背後地を控え、河川と鐵路と海洋との交通に恵まれ、南滿三港の一として大連に亞ぐ主要貿易港たり。總貿易額一ヶ年約一億五千萬圓に達す。就中、豆粕・木材・柞蠶は安東の生命に係る特產品にして、之に伴ふ油房・製材の工場は二十四箇所に及び、製絲・染色の工

場も多數あり。又製紙・燐寸の工業も相當に發達す。

市街は、新市街と稱する鐵道附屬地の部分と舊市街の沙河鎮と呼ぶ支那街との二つに分割せられ、又市街の中央を貫く鐵道に依つて、北半は商業區に、南半は工業區に岐たれ居るも顯著なる市勢を爲すものなり。

市街に於ける交通機關としては、安東新義州間軌道車あり。又乗合自動車、馬車、人力車等を備ふ。一方、水路に

依るものには、大阪商船、朝鮮郵船、大連汽船等の定期航路となり居るため、内地、朝鮮及支那方面各港へ相互交通を爲すことを得。

安東に對する都市計畫上の重要な施設と見るべきもの

を略記すれば次の如し。因に其の總ては南滿洲鐵道株式會社（以下單に滿鐵と記す）の經營管理に屬するものなり。

上水道 其の施設二箇所に對し事業費百三十二萬餘圓を支出し、既に一萬三千餘戸に給水し、一ヶ年消費水量約八十六萬立方米を算す。

消防施設 消防隊一隊、消防組一組、駆付消防組二組にし

て、其の主要器具はポンプ自動車・水管自動車及器具自動車各一臺、手押ポンプ及水管車各五輛、機械梯子一基を設ふ。

火葬場 普通火葬場一箇所、簡易火葬場三箇所を有し、一ヶ年約火葬數二百五十件を取扱ふ。

墓地 三箇所に在りて、其の敷地面積合計一萬一千七百二十四坪あり。

汚物掃除作業 廉芥運搬は一ヶ年其の戸數約一萬二千五百戸に對し、搬出量約一千五萬二千噸に達し、又屎尿處分に就いては一ヶ年約一萬二千五百戸に對し、搬出量約一千三百九十一萬立に及び、兩者共に肩擔及馬車を以つて運搬處理す。

公園及遊歩地 鎮江山に於ける安東公園を始め三箇所、遊歩地一箇所を有し、其の敷地面積總計三十三萬八千八百五十三坪を算す。

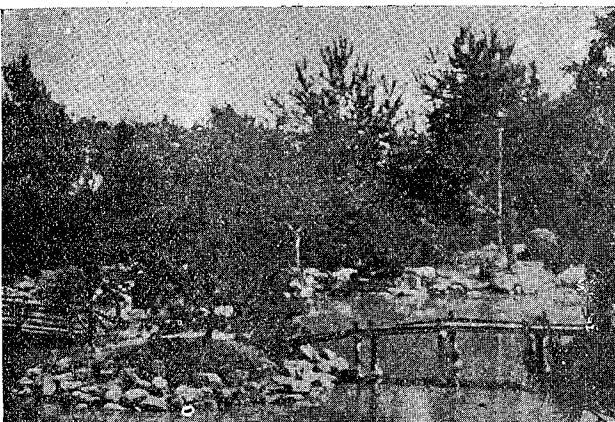
運動施設 演武場・野球場・陸上競技場（三百米トラック）弓道場・水泳プール及スケート場（毎年冬季施設）各一

箇所、庭球コート及體育ボールコート各四箇所を設備し、而して安東管内には草河口、通遠堡、鶴冠山、鳳凰城、高麗門、湯山城及蛤蟆塘に各庭球コートを鶴冠山に野球場及弓道場を設置す。

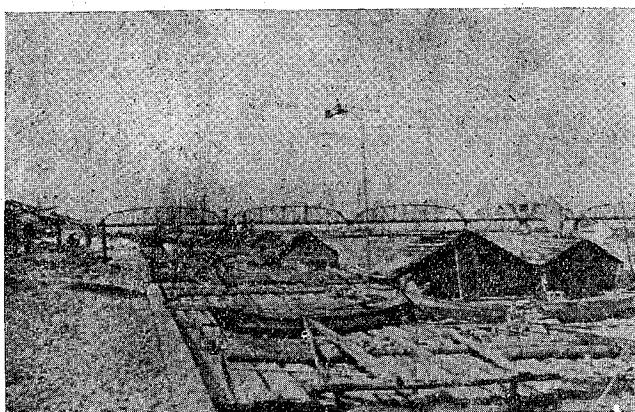
埠頭施設

安東埠

埠頭の施設は、埠頭護岸延長九千二百三十五尺、浮橋橋二箇所、倉庫及上屋として九棟此の建坪



江山公園



純然たる河港にして所謂商港に屬し、其の始め明治四十一年四月大連埠頭事務所安東支所を設け業務を開始した五年四月大連埠頭事務所安東支所を設け業務を開始した

しての取扱貨物四十三萬噸に達す。斯る成績を示すに至りたるものは、前述の設備の外に鐵製クレーン三噸のもの一臺、又曩に於て百十三萬圓を投じて安東一萬九千百尺餘の新堤防と附近一帶の雨埠水の排泄工事に着手し其の竣工を見たるに依るものと云ふを得べし。尙本港は

るが、大正三年五月に至り同支所を廢し、營業其の他一切を擧げて安東驛所管に移したるものなり。

鴨綠江と鴨綠江橋

安東と最も關係ある鴨綠江は、古より傳へ聞く「ありなれの流れ」にして源を遠く白頭山に發し、鑿々百四十邦里を流れて黃海に注ぐ。其の間小型戎克は十三道溝まで、百二十餘里を遡航し得ると云ふ。滿潮を利用すれば、吃水十呎以内の八百噸級迄の汽船は容易に安東埠頭に來航することを得るなり。尙大型汽船は江口（多獅島錨地附近）に碇泊して絆舟によりて連絡す。因に安東附近に於ては平時潮水干満の差は平均九尺なり。

江口より百邦里の奥地、帽兒山附近の上流地方は、針葉樹の大森林ありて、左右兩岸に於て面積二百二十萬町歩に亘り、之が蓄積量十億尺締と稱せられ、伐出されて「筏ぶし唄、ひながらに瀬を越せば」の小唄を乗せて有名なる筏

となり「十字に開けば眞帆片帆」の句となり、鴨綠江橋下に到るものにして、毎年安東に到着する支那側鴨綠江材は約二百乃至三百萬尺締を數へ、此の流筏により運搬する季節は六月より八月まで三ヶ月間最も多く、其の間六千餘臺を下らすと云ふ。

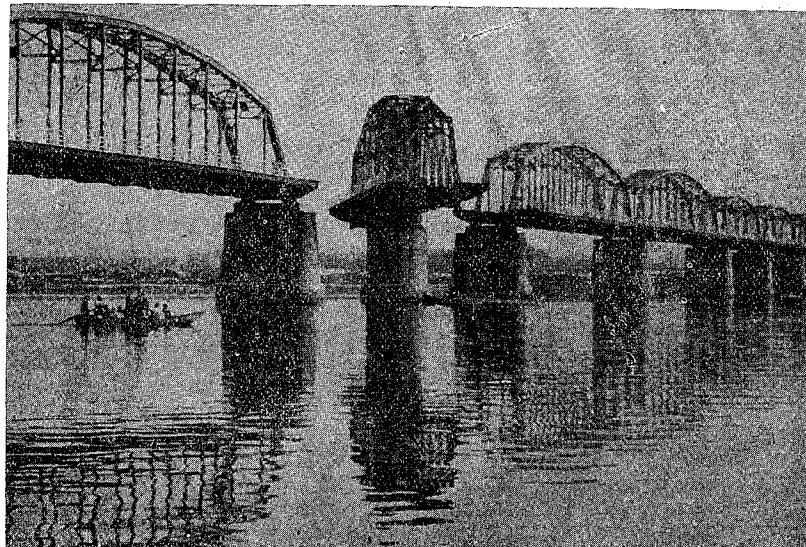
尙本江は十一月下旬より三月中旬までは結氷し、此の間は樺にて凡ゆる物資を運搬するに利用し、一方鴨綠江橋附近はスケート競技場として特に其の名高し。

鴨綠江橋は鐵道及人車道の兩用を兼ねるものにして鮮滿連絡の要路緊繩に置かるる物として又幾多橋梁中の異色として東洋に於ける唯一の交通橋なることは言ふを俟たず。

此の鐵橋は朝鮮總督府の經營に成り、其の亘長實に三千九十八呎、十二連の上拱鐵構橋になり、安東側より第四桁が中央にて支持せられ、水平に廻轉する如く裝置せられ居る所謂スキンギング・ブリッヂを型るものなり。一日中三定時三十分、十二時三十分及十六時より各一時間に十字形に開橋し、船舶の航行に便す。尙鴨綠江の結氷時中は其の開閉をなすの要なきは勿論にして、開橋中は橋上の歩行を許

されざるも、開橋回轉を觀察せんとするものは、其の關係官憲の許可を得るものとす。

本鐵橋の鐵道は單線（範軌四呎八吋半）にして、兩側に八呎宛の人車道を併設しある等、東洋一と稱せらるゝも當然然るべしと思はる。唯、現在のスピード時代より想到すれば、鐵道が複線ならざると人車道狭くして自動車の自由走行するに考慮せられざりしを遺憾とするのみ。然れども本橋創設當時は自動車が斯く迄に發達するに想ひ及ばりざしは勿論なり。遮莫、此の



鴨綠江橋

一大鐵橋に依る利便は蓋至大の使命を有するものなることは呶々を要せず。而して國際交通橋として、國境架橋として、其の任や實に甚大のものなることは誰人と雖も認め得て餘りある事實にして、茲に明言するものなり。

多獅島鋪地と工場敷地

地域は朝鮮に屬すれども、鴨綠江口に位置し、多獅島鋪地を扼して多獅島築港の聲漸く高く、又新義州府と多獅島の中間に廣大なる工場敷地を擁し、一方龍岩浦港の衰微して全く港灣

の價值なきに到りたる今日。而して築港豫定地も工場敷地も兩ながら我が領土内に在る點より、之れに伴ふ喧傳と運動も相當に高調し、安東にも關係深く又××製鋼所候補地として鞍山其の他に對時し世間を賑はしたるものなれば、参考として茲に其の大要を記さん。

多獅島鋪地は新義州府より南に、陸路二十三哩、水路二十六哩、龍川郡府羅面元城洞地先を距る千五百間の箇所に在り。而して同鋪地は江口の東水道中に在りて、潮汐干満の差、大潮時六米五、小潮時三米六にして、最大干潮時に於て水深六乃至十米を有する。水面積約六十萬坪を數ふ。優に三千噸級乃至六千噸級の船舶十隻を同時に繫留することを得べし。尙西方に點在する一米乃至二米の高さを有する干出の數多き寄洲は恰も本鋪地の防波堤を自然に形成するものの如く、波浪を見ること絶対に無し。且つ明治三十七、八年戰役に際し、陸軍が本鋪地を利用したる以來の海圖等に據り推斷し、其の鋪地及水路等に差したる變化を認め得ず。

次に此の附近に於ける氣温を見るに、北四里半にある龍岩浦の測候所の觀測に依り、多獅島に於ては龍岩浦よりも平均二度氣温高く、自明治三十七年十二月至昭和五年三月二十六ヶ年間の統計に依れば左表に示すが如し。

冬季に於ける月別氣温（△印は零度以下）

區別	十二年			摘要
	一月	二月	三月	
平均最高	△一・八	△三・九	△一・〇	五・二
平均最低	△一〇・五	△一三・五	△一〇・八	△三・六
平均	△六・五	△八・九	△六・一	十六ヶ年間に
最高	一一一	七・三	九・四	観測したるものなり
最低	△二六・五	△二八・八	△二六・三	
	△一五・二	△一五・九		
極數	△二八・八（昭和二年一月二十二日）			

次に鳴綠江に於ける流結氷の狀況を見るに同江口に於て

結氷の限界線としては、三橋川口より下流東泰水坪北端の間に認むるものなり。参考として龍岩浦のものを擧ぐれば前記二十六ヶ年間の觀測に依るに、結氷は最も早きものにて十一月四日、遅きものは十二月五日に始まり、其の終日は最も早きものにて三月二日、遅きものは四月一日の記録を示す。而して多獅島に於ける流水は總督府の精査に依る報告を見るに

〔流水の狀態〕 本鋪地は其の位置鴨綠江の江口に在りと稱せらるるも、全然外海に在るを以て、鴨綠江本流に於ける流水の影響なく、只附近の干出地に於て夜間の干潮時に凍結する脆弱なる薄氷が、昇潮により浮揚流動するに止まるものなるを以て、厚さ僅に十粁内外より最も厚きも三十粁、大さ一米乃至三米平方のものが、或る程度の集團をなし、浮游するに過ぎず。即ち潮流、風向、氣温等により其の程度を異にし、或は海上五分の一程度迄彌漫し、或は僅に其の片影を認むるに過ぎざるの日あり。大體に於て「氣溫十八度以下に下降したる時二日間

位」及「一般に當日の最初の昇潮時」には概して以上述べし程度の浮游流水多きも其の他は殆んど流水として見るべきものなく併も何れに於ても其の質軟弱なるを以て長六、七米の小舟と雖も自由に操縦し得る程度なり。

〔流水と風向〕 十二月より三月に至る間の本鋪地附近の最多風向は北々東なり。北風之に亞ぎ且つ此の方向の風速は他の方向の風速より、比較的大なるを以て、流水は概して鋪地の西方を流れ、尙退潮に際し遠く沖合に流失するを普通とす。

〔解氷の流水〕 龍岩浦より上流の鴨綠江本流の流水は干溝の作用により殆ど同一區間を流動し、江口外には差しある影響なきものにして、昭和五年の實例に従するに三月十日午前八時解氷したる新義州鐵道橋下流江口附近信個坪一帶の寄洲迄の間を移動し、東水道即ち多獅島鋪地には遂に一片の流水をも流下せざりき。

以上述べたるが如く、多獅島鋪地の流水の如きは船舶の出入及碇繫上何等介意すべきものにあらず。多獅島港の築

設に依りて其の効果を十分發揮し得るものとして、一日も早く、其の完成を期待するものなり。

一面築港としての經濟的價値を按するに、西鮮の國境即ち新義州及龍岩浦の兩港の出入貨物總量、最近一ヶ年約百四十二萬噸、一億三千八百萬圓（通過貨物を含む）にして、其の上新義州との鐵道連絡完成する暁には、從來の不便不利を除き得て、現在鐵道による内地及南鮮地方に對する輸送貨物七十一萬八千噸の五割乃至八割は本港を經由するに至るべく、海路に依るもの二十四萬噸を合せ、出入噸量は約七十二萬噸に上り、加之從來運賃其他の關係上、他に移動しつゝありし定州以北の農産、林産、畜産及水産等十七萬五千噸も本港を經由するを採算上得策となすべしに依り、本港に於ける呑吐物資の總量は實に八十萬噸にも達し、國境貿易上の振興に寄與する處多大なるものあるは明なり。又本港は國策上より見るも、最も緊要なる事項と云ふを得べきなり。

終りに多獅島築港に要する工事費を考ふるに、出入貨物

百萬噸の荷役に要する繫船岸壁の製造及之に附帶する諸施設を合せて、工事費約五百四十萬圓を要すべく、工事期間三年乃至四年を費すものとす。

工場敷地としては、鮮滿共に其の候補地も多々ありと雖も、新義州と多獅島との中間に位し、最も適するものあり。鴨綠江及其の支流三橋川を控え居て、概して平野又は稍丘陵起伏すと云ふ程度の地形なり。就中、新義州と多獅島との略中間に位する龍川郡楊下面及北中面と稱する地方は標高六十尺内外にして、百萬坪乃至三百萬坪に亘り甚だしき高低不陸なき地帶數箇所あり。而して之等の箇所は、概ね畠地に適して小高き所に徑二、三寸乃至七、八寸の松樹生育し居て、地質は總て表面に粘土質堆積したりと雖も深四、五尺にして黃岩盤に達するを以て、工場敷地として格好の所要面積を得ること容易なるのみならず、地均し及び基礎工事を施行するに當りても工費の節減を十分になし得るなり。

尙工場に附隨すべき市街地の如きも、人口十萬乃至二十

萬を包擁し得べき地積を選定すること極めて容易なり。

而して工場及附帶市街地を構成するに必要なるは水にして、此點より見るに三橋川の水豊富にして又良質なるため上水としても工場用水としても、譬ひ現在該川の水は水田一萬五千町歩に灌漑をなし居ても十分多量なるを以て引用し得て餘りあるなり。三橋川に於て適當の箇所を選び、水量を観測したるに、同箇所は潮汐干満の影響により水位上昇する淡水なるが故に全然潤渴することなく、一日數十萬噸の水量を引用し得るなり。凍結時に於て、平均干潮時に七十七平方米餘、普通時に於て平均干潮時に六十一平方米餘の水流断面を有するに見ても、水量に就いては何等憂ふるの要なし。

又其の水質に就いても試験の結果に見るときは、結氷中は河水清澄なるも、其の他の時期に於ては相當の混濁あるを免れずと雖も、約一晝夜の沈澱作業によれば、完全なる工場用水となすに足るものなり。只飲用に供すべき上水は今回調査をなしたる箇所より、少し上流の適當なる箇所よ

り引用するを適切なりと認む。

新義州より前述の工場豫定地を経て多獅島に至る鐵道は其の敷設哩程二十三哩を要すべく、途中三橋川に約千二百尺の橋梁を架することあるも、他は地勢概ね平坦なるを以て鐵道工事の施行最も容易にして、之れが建設費の如きも約二百五十萬圓にて事足るべきの見込なり。

奉天と諸施設

奉天は満洲地方の主都なりき。東三省全土の政治、軍事經濟及教育の中心地にして支那側の樞要なる官衙を始め滿蒙に特殊の權益を有する我が國に對しては外交上重要視せられ居たるも蓋し無意には非ざるなり。此度「新滿洲國」建設せられ其の首都を長春(新京と改む)に移したりと雖未だ實質に於ては奉天を最上となすは論を俟たざるものあり。

此の都市は大連を距ること二百四十六哩四、長春へ百八十九哩四に在り。廣漠豐沃なる大平原の中央に、満鐵の連長線、安奉線及撫順線の三鐵道、京奉線、奉海線以上五鐵路結節し、満洲交通の樞軸を成し、北平(舊稱北京)へ五

百二十哩の地
を占む。

當地は古く

藩州と呼び、

元朝には瀋陽

と云ひ、清朝

時代太祖帝業

の地として盛

京の名を冠す

北京に遷都し

たる順治の初

年後は、留都

(陪都)と定

め、其の後奉

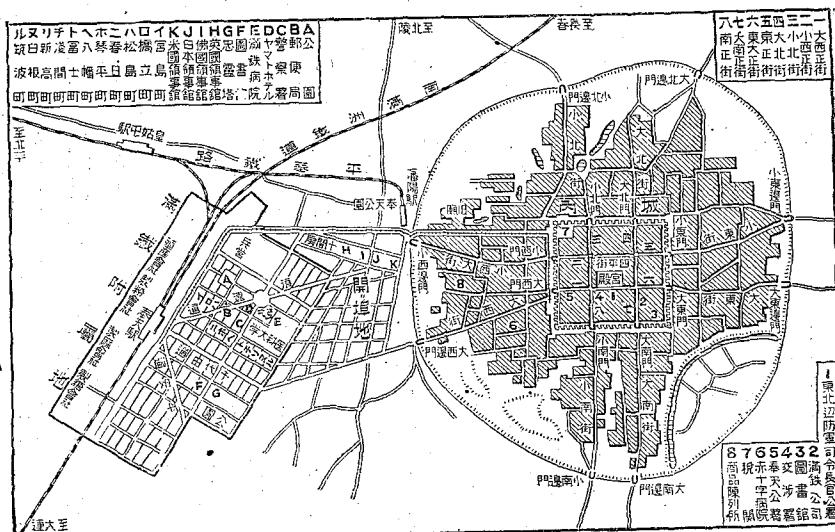
天府を設けて

奉天と銘する

に至る。民國



奉 天 駿 前



となり其の十
八年瀋陽の名

を復す。一般

に奉天と通稱

するも城内は

瀋陽と云ひ、

又外人間には

ムクデンと呼

ばる。

此地を中心

とする半徑半

哩餘の圈内

は、日露戰役
の際の大會戰
場たりしこと

は、三月十日

の陸軍記念日

なると共に來奉するものをして、感慨深からしむるものあり。大奉天は大別して、鐵道附屬地、商埠地、城内の三區域とし、附屬地は言ふ迄もなく日本の行政區域にして、商埠地は諸外國人の爲めの居留地、城内は支那人自體の行政區域なり。近年城外の東及北の郊外に市街が著しく膨脹し行く傾向を有す。

附屬地は面積三百十五萬坪、長方形をなし、鐵道線東を一般市街とし、鐵道線西を工場地と指定したり。市街は秩序整然たる直角交式街衢を成し、唯驛前廣場より二條の大斜道が大膽に放射し、浪速通、平安通の名を呼ぶ。浪速通の中央部に大廣場を設け、平安通には小廣場を其の中間に置く。而して附屬地の東南部は醫科大學を始め諸學校並びに建ちて、學校街を形成す。浪速通の沿線は所謂商業地にして、邦人の商店も多く殷盛を極む。南二條通附近、千代田通以南は支那人多く居住して、夜を賑はす設備も相當にありと云ふ。

城内は是れ瀋陽城と呼ぶ所、美しき宮殿を中心としたる方形の内城と、夫れを圍む不整橢圓形の邊城より成る滿洲第一の平城なり。内城は磚築にして城壁の長さ一里半、高さ三丈五尺、厚さ一丈八尺、八門を開きて、其の内城は各門に通ずる大道が井字形をなし、中央宮殿を回りて所謂東

慘害の痕を留め居たる戰蹟なりしを、明治四十一年滿鐵の經營に依りて都市計畫も行はれ、今日の發達を見たるものなり。其の結構盛なりと云ふべし。

商埠地は城内と附屬地の中間に介在し、我が領事館始め諸國の領事館あり。二十年前頃は此所に日本人も一大商市を型り居たれども、附屬地市街完成に連れて、其の繁榮は移り行きぬ。附屬地内の街路は鋪装も行き届き、萬端整頓し居るに、商埠地は道路も泥濘の所多く、街並も不整形にして、住心地も惡しかるべきと思はる。此の地區には支那側の奉天公園露國墓地、喇嘛の皇寺等あり。又有名なる延壽寺の西塔は代表的喇嘛塔なり。

北四省の主腦をなす諸官衙物々しく集まる。城門に通ずる

大道は何れも最近市區改正を終り商家極めて殷賑、特に小西門より小東門に通する四平街は歐風の大商舗櫛比して人馬車織るが如くなり。城門は何れも甕城を有し、夜は門限を定めて閉鎖す。邊城は周圍四里の土壁なりしが今は破壊せられて概ね其の形を止めず、八邊門を開き居りしと云ふ。而して邊城と内城との間は、民家稠密し幾多の胡同（横町）を型る。

最近交通、通信上の障害より大南門及小東門を除く他の六門は、取毀されて昔日の威風なしと雖、四平街頭に立つ五層樓「吉順絲房」¹聞くに張學良が直營したり絲房即ち吳服店にして、デパートメント・ストア²なりの露臺に立てば城廊は尙嚴かに其の固めを示し、十字路の鐘樓、鼓樓は清朝の昔を、宮殿の臺と共に匂はずの慨あり。近く又遠く、附屬地の壯麗、北大營の嚴肅等大平原の裡に喇嘛の東塔、南塔西塔の間に散見す。因に當城廓は既に元朝初期に創設せられたるものなりと傳へられたるが、清の太祖が天祖五年に現存のものに改築したるなり。眞に清朝興隆

の歴史と共に忘るべからざる發祥の帝城たり。

次に奉天に於ける交通機關を見るに、汽車は前述の五鐵道の連絡あり。路面電車としては日本側經營の分は、奉天驛前より城内小西邊門に至る間にて、支那側としては小西邊門より太西關までを經營す。又日本側にも支那側にも乗合自動車あり。此等の外、乗合馬車、タクシー、馬車、人力車等相當の數に上る。

都市計畫上の重要な施設事業とも見るべきは、道路の整備學校住宅の經營、諸官公衙の配在等は勿論にして、其の他は概況を左に記さん。

路面電車 前述區間の電車は、奉天電車株式會社の經營になり、範軌の四呎八吋半、其の延長一千八百十八米の一線なりとす。然れども近き對來に於て、第二期事業として奉天驛前より附屬地境界迄一千四百四十米及忠靈塔前より十間房迄一千八百三十米を建設し、第三期事業として奉天驛前より若松町南五條通、萩町を經て千代田通に至る約四千米を増設する都合なり。

公園及遊歩地 公園二箇所、遊歩地二箇所を現在し、其の敷

地面積二十五萬七千六坪を有し、一ヶ年約八萬圓を費す。

屠場 一箇所を有し、事業費として十三萬三千餘圓を費し

其の一ヶ年の屠殺數は牛、馬、驢、豚、羊等合計一萬六千五百餘頭を算す。

上水道 施設箇所二にして、事業費として九十七萬六千餘圓を費し、約八千五百戸（人口四十五萬人）に給水し、其の消費水量約二百萬立方米を示す。

消防施設 消防隊一、駆付消防組一にして、自動車ポンプ二、手押ポンプ二、機械梯子一等を設備し、一ヶ年五萬七千餘圓を費す。一方火災は件數四十一にして其の被害高六萬圓を算す。

火葬場 普通火葬場一、簡易火葬場一にして、火葬件數は一ヶ年四百五十餘を數ふ。
墓地 墓地は一箇所にして、其の敷地面積一萬五千七百餘坪、設備費として、七千九百八十餘圓を費す。現在迄の貸付面積は約一千坪なり。

汚物掃除作業 廉芥に就いては其の戸數約八千戸（人口四萬二千人）に及び其の運搬量は自動車及馬車を用ひて二千五百八十餘萬匁に達す。又屎尿に對しては一千四百六十餘萬立を數へ自動車及馬車にて運搬す。

運動施設 演武場、野球場、陸上競技場、弓道場、水泳プール、スケート場、各一箇所、庭球コート三箇、體育ボールコート五箇所を設備す。尙奉天管内には亂石山、得勝臺、新臺子に各庭球コートを設置す。

以上は極めて簡略に記したるなれども、奉天は鐵道附屬地中に於ても、頗る重要視したるは勿論にして、文化の施設も至れり盡せりと云ひて過言にあらざるを覺ゆるなり。

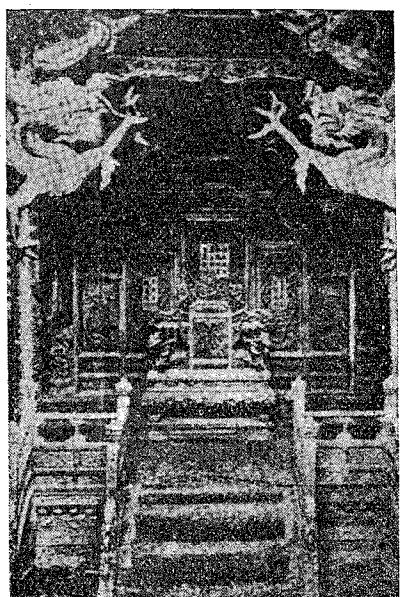
宮殿と北陵

宮殿は清の太祖及太宗の宮居にして、約三百年前の建築なり。城内の殆ど中央に位し、東西五十五間南北百四十八間の頹壁を以て圍み、中央に大内宮闕、東に大政殿、西に文溯閣の大體三區劃となし各區劃内に多數の建物を包擁す。大内宮闕は現在博物館となり、有料觀覽せしむ。

大内宮闕は正面南に昭壁を設け其の内に中央に近く兩側に奏樂堂あり。其の後方兩側に右が文德坊、左が武功坊の

門ありて其の中間少しく奥に大清門と云ふ宮殿の正門を建つ。武功門より入れば東方に飛龍閣、西方に翔鳳閣ありて共に昔時文武大官の溜所なりき。正面に崇政殿あり是れ正殿にして皇帝が政務を攝られたる所、北京遷都後も諸帝奉天行幸の際は朝儀を行はれたり。又此の殿内には歴代の宸筆の扁額を掲げ、中央に玉座を設く。崇

政殿の後には、皇子の勸學



玉
殿
宮
北陵は清朝第二代の皇帝たる太宗文皇帝の陵墓にして、

隆業山昭陵と稱す。奉天驛の北一里半許にして、平原中に

所たりし日華樓、皇女の勸學所たりし霞綺樓が東西に對立し、廚房及食堂にてりし師善齋と協中齋あり。其の中央に三層の鳳凰樓立ち其の奥には往時皇帝が便殿に當てられたりと稱する清寧宮ありて東に永福宮、關雎宮、西に衍慶

宮、麟趾宮あり。之等は皆、皇后、皇子女の居所なりと傳へらる。

而して此の劃外にある大政殿は、王、大臣其の他八旗官員の議政所にして諸亭櫓比し、文溯閣は一に圖書樓と呼びて、四庫全書六千七百五十二函を藏し、其の後、民國三年一旦北京の武英殿に移したる

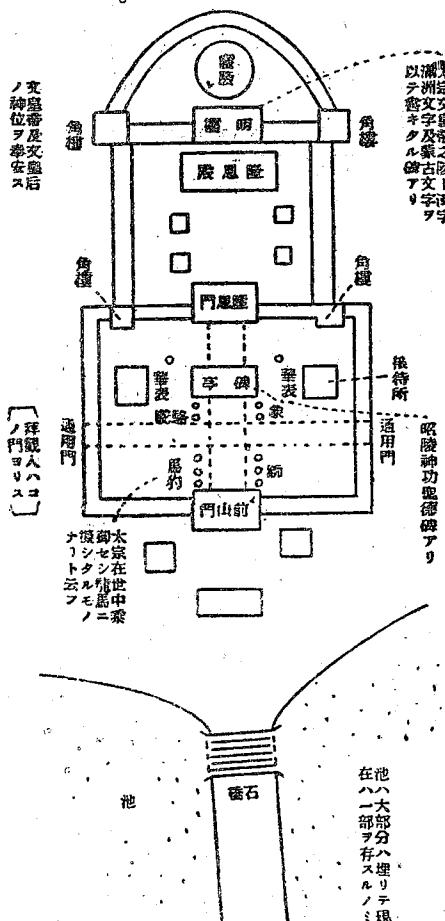
殿も、再び持ち歸りしものなりと云ふ。

上れば碑亭ありて、内に康熙帝の撰になると云ふ「昭陵聖德神功」の碑文を漢、滿、蒙の三文にて刻みたる石碑あり。その後に三層樓を成す隆恩門を入れば、隆恩殿と名付くる拜殿ありて、其の奥、明樓に「太宗文皇帝之陵」と之も漢、滿、蒙三體の字を以

柱、極彩色の斗拱、虹梁、其の間精緻なる彫刻の嵌められたる配合よろしきを得て美しき限りなり。殊に石門、石階、石欄壁間に裝飾せられたる石の彫刻は結構と云ふべきか、就中牌樓に精巧緻密なる石の透彫の施されるは、珍

重なるものなりと。總て之れ清朝全盛時代の文化を偲ぶに足るものなり。

今は此の一
帯の地を、郊



の行樂場となし居るもの時の戯れか、涙を催さしむるものあり。